

揭示用

令和5年の交通事故統計分析結果

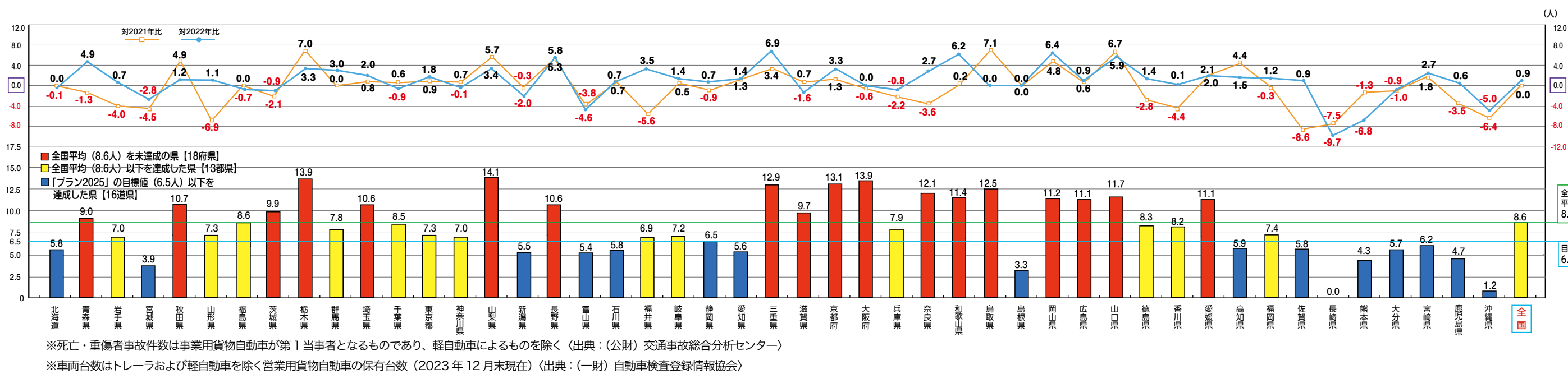
事業用トラックを第1当事者とする死亡・重傷事故【車籍別】

対象は事業用貨物自動車(軽を除く)が第1当事者となる死亡・重傷事故。なお、「車両相互」での第2当事者となる「車両」には道路交通法上の「軽車両」である「自転車等」を含む

国土交通省がトラック運送事業における令和7年度までに達成すべき目標値を「総合安全プラン2025」として公表したことを受け、全日本トラック協会では、「トラック事業における総合安全プラン2025」を定めて令和7年度までの目標を設定。この達成を目指して各種事故防止活動に取り組んでいます。

「トラック事業における総合安全プラン2025」目標値：車両台数1万台当たりの死者数と重傷者数の合計

「プラン2025」における各都道府県(車籍別)の共有目標として、「事業用トラック(軽貨物を除く)を第1当事者とする死者数と重傷者数の合計を車両台数1万台当たり『6.5人以下』とすることを掲げましたが、令和5年は最終的に「8.6人」となり、令和4年の「7.7人」から増加し、目標達成には至りませんでした。

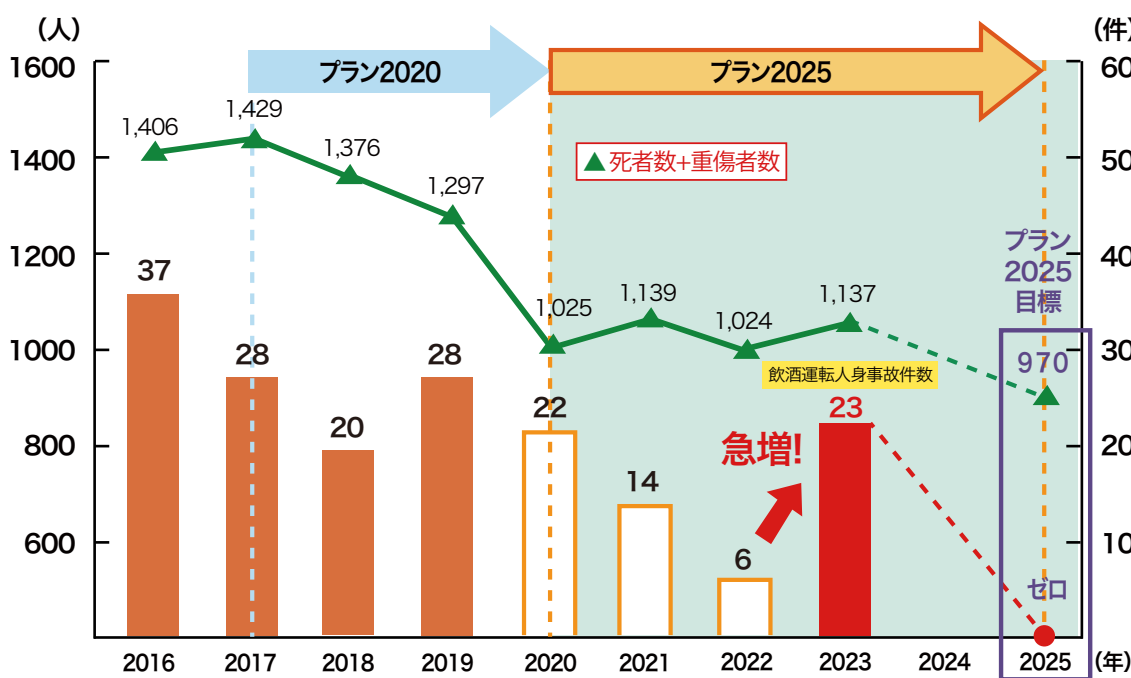


「プラン2025」数値目標と現況

令和5年中の死亡・重傷事故の合計件数は1,062件、死者数・重傷者数の合計は1,137人で、「トラック事業における総合安全プラン2025」の目標である「970人」は未達となっている。

事業用トラック1万台当たりの死者数と重傷者数の合計は8.6人で、目標である「6.5人」を2.1人上回った。

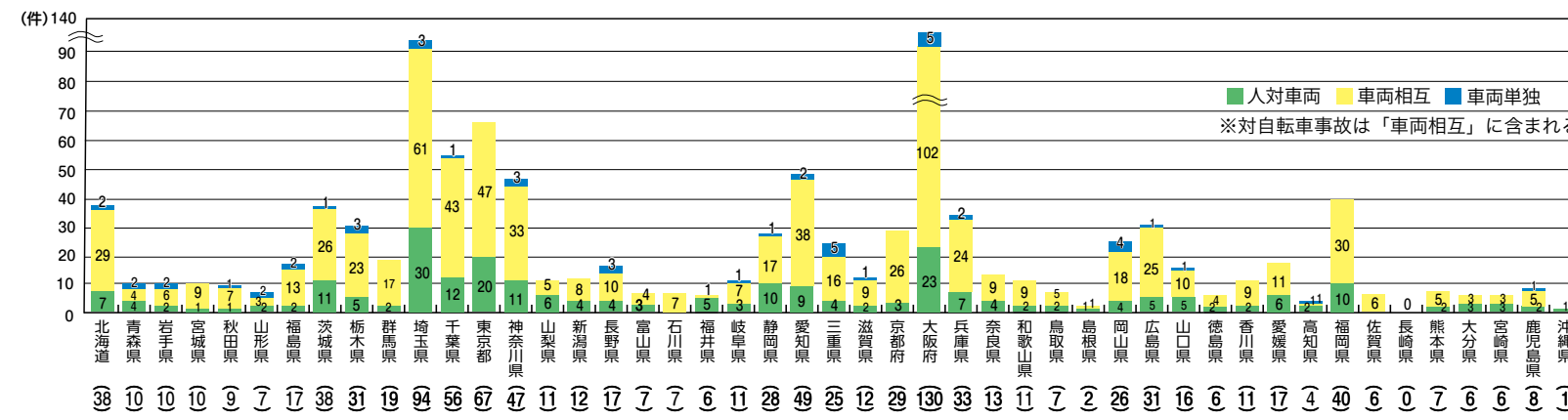
飲酒による人身事故件数は23件と、近年の減少傾向から一転、急増し、危機的な状況にある。



車籍別死亡・重傷事故の発生状況

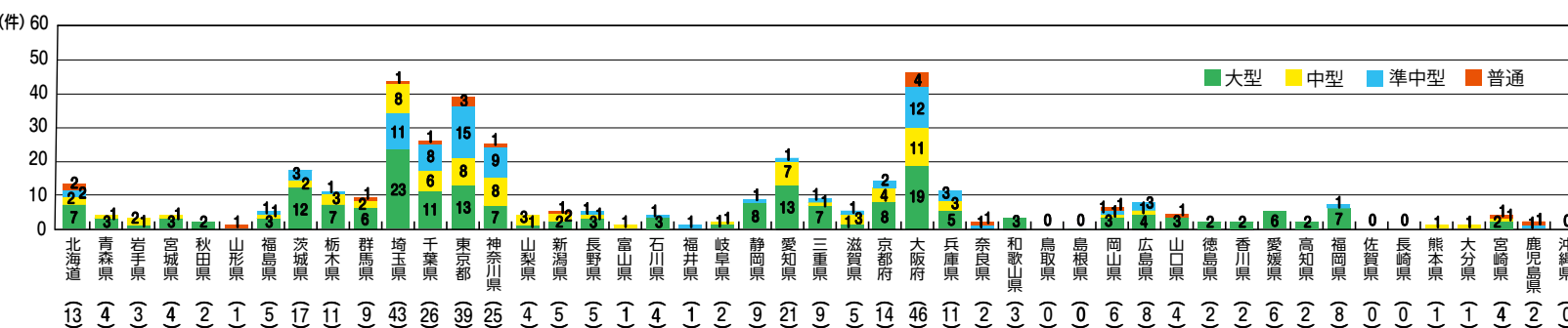
●事故類型別

死亡・重傷事故を事故類型別で見ると、「車両相互」が多い傾向にあり、事故発生件数の多い順は、「大阪府」、「埼玉県」、「東京都」、「千葉県」、「愛知県」、「神奈川県」、「福岡県」となっている。



●交差点事故の車種区分別(追突を除く)

交差点での事故件数が最も多いのは「大阪府」、「埼玉県」と続き、車種区分では「大型車」が全体の約半数を占める。



交差点における死亡・重傷事故(対歩行者・対自転車別)の発生状況

・事業用トラックが第1当事者となる交差点における死亡・重傷事故(390件)は、追突事故(223件)の約1.7倍

・「左折時」：9割近くが対自転車(76件)で、対自転車の8割近くが大型車

・「右折時」：8割近くが対歩行者(61件)で、対歩行者の5割以上が大型車

・「直進時」：6割以上が対自転車(51件)で、対自転車の5割近くが大型車

